

「日本のどこにもカジノはいらない」宣言

I Rは、これまでギャンブルに無縁だった人たちをギャンブルに誘い込む罠である。カジノをきっかけに、ギャンブルにのめり込み経済的に破たんする人が生まれる。ギャンブル依存症という病気になり、ギャンブルから離れられなくなる人が生まれる。家族や友人、職場を失う人もでてくる。経済的破たんや人間関係の破たん、心身の健康の悪化は、人の生命、身体を危険にさらす。すなわち、カジノは、人を破壊する。

カジノ客の観光は、I R内で完結する。つまり、I Rは、地元から観光客を吸い取ってしまうブラックホールである。ブラックホールには、地元の人たちもその保有する財産もろとも、吸い込まれていく。周囲のあらゆるものを吸い尽くしたカジノは、さっさと退散していく。そして、跡には、巨大開発の残骸だけが残される。すなわち、カジノは、まちを破壊する。

短時間で多額の金銭の得喪を競うギャンブルは、一般に不健全であり、正常な商道徳にも反する。一発逆転の発想は、善良な風俗を愛し、勤労を尊ぶ社会慣習とも相容れず、また、教育上の悪影響も大きい。カジノは、我が国初の民営の恒常的公認ギャンブルであり、私たちが古くから培ってきた社会観念を大きく変えてしまう。すなわち、カジノは、社会を破壊する。

ギャンブル問題で苦しんでいる人たちが、日本中にいる。今なすべきは、パチンコを含む既存ギャンブルに対する厳格な規制であり、新たなギャンブルの容認ではない。

カジノに反対する意見は圧倒的である。住民たちの反対運動も、日本中で多様に展開されている。横浜にも大阪にもカジノはいらない。長崎にも和歌山にも、北海道にも千葉にも愛知にも、東京にも、日本のどこにもカジノはいらない。カジノは、人、まち、社会を破壊する。私たちは、カジノの日本上陸を許さないために、連帯してともに闘うことを宣言する。

2020（令和2）年1月26日 集会参加者一同